

⑤ キム・スヒョン 著 吉川 南 訳

『私は私のままで生きることにした』

(ワニブックス)

人気グループBTS(防弾少年団)のメンバー、ジョングクのア読書として話題となった本書は、厳しい現代社会に生きる韓国の若者の共感を呼び、60万部を超えるベストセラーとなりました。

誰かの期待に応えようとしない、恥じる必要のないことを恥じない、みんながそれぞれに幸せになる、などの明るく力強いメッセージは、私たちが自分らしく生きるためのヒントになることでしよう。

時に著者の社会に対する厳しい批判や辛辣な物言いにハッとしますが、緩いイラストとも相まって、読み終えた頃には自然と前向きな気持ちになる一冊です。(N.O.)

159 || Kim

⑦ 室井康成 著

『事大主義—日本・朝鮮・沖縄の』

『自虐と侮蔑』

(中央公論社)

「事大主義」とは近代に生まれた言葉で、自己保身のため強者に追従する態度を表します。本来「事大」は小国が大国に事(つか)える外交政策のことで、悪い意味はありませんでした。しかし「事大主義」はネガティブな日本人気質と結びつき、自己批判に用いられると同時に、韓国・北朝鮮、また沖縄のイメージとしても使われるようになりました。言葉の意味の変遷や、イメージが形成される背景には、どのような影響があったのでしょうか。本書は、東アジア史の概覧とともに「事大主義」という言説を考証し、その有効性を問う一冊です。(S.O.)

210.6 || Mur



⑥ NHK『ロンリのちから』制作班 著

『「ロンリ」の授業』

(三笠書房)

伝わる話し方には、原則があります。それは、あなたが言いたいこと(意見)が、はっきりしているか。そして、なぜそう考えるのか(根拠)が、明確であるか。根拠に「より強く、より確からしい」証拠を集めることによって、意見自体を強いものにし、相手に伝わる確率を高めます。いつもなんだか伝わらないあと感じている人。『「ロンリ」の授業』って本、おすすめ!めっちゃおすすめだから!とか言っちゃう人。「意見」と「事実」を混同して話してしまう人(大多数)に。あなたのコミュニケーションに明確さと方向性を与えてくれるでしょう。(N.S.)

116 || Nhk

⑧ 坪田信貴 著

『才能の正体』

(幻冬舎)

少し前映画化され話題にもなった、『ビリギャル』の著者でもある坪田信貴氏の本です。

この本の中で才能の正体は「洞察力」とあります。洞察力とは、物事を深く鋭く観察し、その本質や奥底にある物を見抜くことであり、観察しただけでは見えないものを直感的に見抜いて判断すること。

説明されると納得するのですが、本人にあるかと問われると意外とありますと自信を持って答えられる人は、少ないのではないのでしょうか。

この本を最後まで読むと、どのようにしたら自分の持っている能力を才能に変えていけるかのヒントが見つかるかもしれません。(N.T.)

141.1 || Tsu